

東田直樹さんは自閉症の高校生です。人とのコミュニケーションは母が作った文字盤で語る。「人はどんな苦しみの中でもシアワセをみつけて生きていくもの」と言います。

同じ自閉症児を持つアメリカ人の父親が友を作ってあげたいと、直樹さんに相談しました。その返答が「友だちがほしいのはあなたの問題で、こどものもんだいではない」

彼の「いのち」に関する考えは簡潔です。「いのちはつなげていくのではなく一人ひとりで完結しているもの」

深く考えさせられています。(橋詰清子)

勉強会

30年6月30日(土) 10:00~12:00 会場：岡崎福祉会館 視聴覚室

テーマ：いのちを見つめて—「死」を語ろう—

【内容】

- 他では話さない・指導しない・否定しない・割り込まないと4つのルールを決めてから、5名ほどのグループに分かれて分かち合いをしました。休憩後、お坊さまの和田あい子さん、カトリック司祭の早川努神父の話を聞き、みんなで交流しました。



【感想文より】

- みなさんの経験から死とは生を考えることだと思いました。次回も楽しみにしています。今日のような形式はとても良かったと思います。
- 自分の意思でこの世に生を受けたのではないことを思うとき、あの世への旅立ちも自分の意思では決められないのは当然のことに思われる。人智を越えた大きな大きな流れの中にあって人は何を思い考えあぐねているのでしょうか。時々理由もなく涙があふれてきます。その涙の中で明日もこの世に存在するであろうと何の確信もないことを信ずる不可解な感情、この世からあの世へと繋がっていく、あの世の門前に立たされた時、この世での来し方をふりむき「ありがとう」と言おう、忘れずに。



- 死について考えると、生についても考えていくことになります。死んでしまったら、どこに行くのか？天国や地獄はあるのか。魂はあるのか。死んだら全てが無になってしまうのか。死に間際によく川が流れたところにいたり、お花畑の所にいたりした経験があるという話はよく聞いたことがありますが、本当に死んでしまった人の話はきいたことがありません。それだけに疑問がたくさん出てきます。生きることについて言えば、どうして私はこの世に生まれてきたのか、私が生まれてきたわけは何なのだろう、使命はあるのだろうか、と生きることへの疑問もたくさん出てきます。

- 今回は、仏教とキリスト教の専門家であるお二人にお話を聞くことができ、とても学ぶことができました。宗教が単に葬式や法事のためにだけあるのではなく、人々の生きる支えになっていることを改めて感じました。

- ・グループでの話で自分の事や他の参加者の話を聞くことができるとてもいい時間となりました。普段なかなか「死」を前に話をする時間を持つことは難しい。でも「死」を考えると「どう生きるか」を考えることなのでとても貴重な時間だと思いました。また是非次回も参加したいと思います。
- ・家族の死、自分の病気をとおして「死」を意識しました。生きている今、大切にしたい事や整理したい自分の思い、じっくり考えてこの先の時間を過ごしたいです。
- ・自分が生まれてきた使命については深く考えてこなかったけれど、振り返ってみれば自分なりに一生懸命に生きて来たように思う。決して世の為人の為には何の役にもたっては来なかったけれど・・・。今日の話の中で死に向かう目的を考えてみる大切さに気付かされたように思う。自分の死についてはそれなりの覚悟も考えも持っていたても、いざ家族の死の問題と直面するとオタオタする自分の姿、矛盾した姿を最近体験しました。



・小グループでの話し合いは質問したい時もスーッと言葉もさしこめて話を深めることができた。今回の話から語り合うポイントをまとめ次回はそれを討論の柱としてすすめては？

- ・途中参加させて頂きました。短い時間でしたが中味の濃いお話が聴けました。ありがとうございました。「死」を語ることは「生」を深く考えることだと改めてよく理解しました。
- ・死の話は重たいかなと思っていましたが皆それぞれたくさん話され良い時間を持てたと思いました。小さいグループなので一人ひとりのお話がしっかり聞けた。
- ・死についての話し合いから今をいかに生きることの大切さを考えさせられました。私自身独身のせいか自分の始末を意識したいましたが、ご家族のある方と意識の違いを強く感じました。この機会に改めて思いを意識させて頂きました。ありがとうございました。
- ・「生と死を考える」大切なのになかなか語り合えないです。でも今回はじっくり話し合えました。何回も続けていきたいです。死ぬまで考えるでしょう。結論の出ない終わりのない問いだと思います。
- ・生と死 深く考える機会を頂きました。話し合うことで心の窓を開くことができるようになると思います。
- ・2月に次女を亡くしました。肝臓がんで告知から半年でした。娘は46歳で10年目に授かった末の子はまだ2歳半でした。私は娘を岡崎に引きとろうとしましたが、娘の夫は最期まで見てくれました。身を裂かれるような逆縁の悲しみに耐えて、私は老人クラブの活動、短歌の講師などに時を忘れて動いていました。娘の遺した4人の孫の成長を見守っていきたくと思います。
- ・個人の問題を提出し（グループをつくる）自分の年齢も関係している事で、家を出ると個人としての生き方をする事になるから、宗教も変わるし実際も生活での習慣も異なってくるから・・・。これからしっかりと見定め乍ら個人もよく生活を通してその重さを常に考えて行動したい。（生きているうちに死を含めてその対処の方法を考えるのが早い程良い。病気とか生き方に大切）

- ・宗教家には、ご自分が信じている「死」とはどういうことかをもっと詳しく語ってほしかった。時間が足りなかったかもしれない。
- ・グループの中には初めてお会いする方もいらっしやって最初は自分の話をするのに不安もありました。でも皆さんとても真剣に耳を傾けてくださり安心して心を開くことができました。「死」に対するイメージ、捉え方も本当に人それぞれで考えさせられました。分かち合うことで「死」への視野が広がるのを感じましたし、自然に「生」についても考えていることに気が付きました。たくさんの方に体験してもらいたいです。
- ・いろんな経験をされてきた思いを伺いながら、いつも生きることへの目的を考えながら毎日を過ごすことが出来たなら、きっと毎日が違うのかもしれないと思いました。今を生きる、金太郎飴のように何処で時間が止まっても同じ顔していられるような気がするのと改めて思えました。良い時間をありがとうございました。



【運営委員会より】

10月20日（土）午後からになりますが、同じテーマと方法で勉強会を計画しています。詳しくは9月に往復はがきでご案内させていただきます。

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第3木曜日 10：00～12：00 事務局（橋詰宅）

「後悔、先に立たず」よく知っていて誰もが口にしたことのあることわざ、昔からの言い伝え。「会うは別れの初め」もよく知っている。知っているのに実感のないまま毎日を送っている私。かけがいのない家族や親しい人との別れは、一緒にいた時が良くても悪くても「後悔」するものではないのでしょうか。突然の別れもそうでない別れも、その直後は「これでよかったのか」「まだ何かできたのではないか」……。答えて欲しい人はもう答えない。自問自答するばかりで出口がない。誰かに聴いてもらって自分の気持ちを納めていく。「これでよかったんだ」「精一杯だったな」心を浄化し、感謝の気持ちが湧いてくる。

「つどい」の場はこんな一面を持っています。

※8月のつどいは16日です。



（縄田昌子）

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。

4・6・9・11・3月 第2月曜日 10:00~12:00

場所：愛知病院地域緩和ケアセンター



愛知病院で毎月第2月曜日に行っていた手縫いの雑巾を作る会は、今年度は2018年4月6月9月11月と2019年3月の計5回の活動としました。回数は少なくなりましたが、2人の新しい方々が加わってくださり話題も広がり、少しゆとりができた感じがしています。

縫っていると毎回お花のボランティアの方がみえ、季節の優雅なお花を活けてくださいます。利用する人皆が癒される場になっていますので、一度のぞいてみてください。 (勝川俊子)

緩和ケア病棟ボランティアの報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏

毎週金曜日1:30~4:30 愛知病院緩和ケア病棟

アロママッサージ 毎週火曜日1:30~3:30 練習日第4金曜日11:30



緩和ケア病棟での患者さんへのマッサージは毎週火曜日と金曜日に行われています。その中で多くのことを学ばせて頂いています。患者さんとお話の中からお見舞いとは？と改めて考えたこともありました。お友達と誘い合って行くものでもなく、相手が何を望んでいるのかを一番に考えなくてはいけないということ、時にはお見舞いに行かないこともお見舞いなのだを教えて頂きました。会えても会えなくても、自分の心ではなく大切なのは相手の想いが大切なのだと心に刻んでいきたいなと思いました。これからも患者さんから“お部屋にどうぞ”とおもてなしを受けていることも忘れることなく、マッサージの時間を大切にしていきたいです。(柴田 由紀子)

七夕会 7月6日

ゆかた姿の橋本先生、看護師さん達による楽しい縁日の場となり、ベッドのまま参加させた方もみえました。色とりどりの風船が浮かぶ風船釣り「何色がいいかな」と嬉しい迷い、看護師さんによるバルーンアートでは、次々に出来上がる風船の動物に拍手喝采、そして笑顔、笹につけた短冊の患者さんご家族の思いや願いが見守る中での楽しいひとときとなりました。

ピアノ演奏、ティーサービス マッサージ そして浴衣の着付けに参加しました。また会員以外で協力してくださいました方々に感謝いたします。どうもありがとうございました。(神尾弘美)



◆ご寄付ありがとうございました ・神谷花子さま

◆あとかき

今回の勉強会が生と死について、また今までの生き方、これからの生き方について自分を見つめる、良いご縁になりましたでしょうか。猛暑日が続いています。頭痛、めまい、吐き気、こむら返り、筋肉痛、多量の発汗がでてきたら、熱中症の疑いがあります。こまめに水分と塩分をとり冷房を活用し、どうぞこの夏元気にお過ごし下さい。(永谷美雪)

♥永谷さんは看護師であり社会福祉士でもあります。